

平成27年度 森林総合研究所北海道支所研究評議会

1. 開催日時・会場

平成28年2月24日（水）14時00分～16時20分
森林総合研究所北海道支所大会議室

2. 評議会委員

谷 一之 委員（下川町長）※急速都合により欠席
坂田幹人 委員（北海道森林管理局森林整備部長）
佐藤冬樹 委員（北海道大学北方生物圏フィールド科学センター教授）

3. 出席者

北海道支所：支所長、産学官連携推進調整監、地域研究監、チーム長、研究グループ長、連絡調整室長、庶務課長
北海道育種場（オブザーバー）：育種場長

4. 評議会内容

- ・北海道支所活動報告
組織（研究員が微減）
予算（27年度に比べて研究管理費がやや増加。研究費は外部資金の割合大きい）
研究推進（支所の主要課題の説明。今中期の主要課題、農食研事業、交プロ等）
広報活動、地域連携（農食研成果の普及に努力、現地検討会など）
- ・北海道育種場活動報告
二酸化炭素固定能の高いカラマツ、トドマツ優良品種の開発。特定増殖事業参入者への講習。
- ・研究紹介（主要成果をピックアップして紹介）
 - 「多様な樹種の天然更新を目指す更新促進技術」（実行課題5年間の成果。新しい地表処理法）
 - 「トドマツ人工林における保残伐施業の実証試験—生物多様性保全と木材生産の両立を目指して—」（道有林での大規模実験。3年目までの結果と今後の展望を紹介）

5. 評議会委員からのコメント

- ・主伐期を迎えた国有林でも低コスト化は大きな問題。一方天然林の更新も重要なテーマであり、多様な樹種を確保できる施業法を国有林に還元を期待。
- ・大学も交付金が年々削減され、基礎研究がやりづらい状況。地域ニーズに叶った研究を行えるのが支所である。成果の地域還元と研究業績の双方を求められたいへんであるが、がんばって欲しい。